

○ジャパングリーディングホースショー

11月26日～28日、三木ホースランドパークで第13回JRAジャパングリーディングホースショーが開催されました。遠野の生産組合員8名が見守る中、出場した遠野産馬6頭のうち岡山乗馬倶楽部のフロムAが第3競技と第7競技で優勝しました。



2つの競技で優勝したフロムAと西崎純郎選手

フロムAは2012年生まれのセン馬。父ヴァーリントンW、母ジェルランドという日本スポーツホース種で、セリ名は「ジェルランドの12」、生産者は高橋眞氏です。

○未来に向けた新たな交流

この半世紀、遠野は本州で唯一の内国産乗用馬の生産地として多くの産駒を送り出してきましたが、生産者の高齢化が進み後継者不足が大きな課題となっています。一方で、人工授精士の資格をとり独自に馬を生産する乗馬倶楽部も増えてきました。今回のグリーディングホースショーでも、明松寺馬事公苑の佐藤泰選手が自家生産馬のハリーM（日本スポーツホース種）に騎乗し、ジャパングリーディングカップ(120cm)を制しています。組合では今回の競技会観戦と併せて、兵庫や徳島で生産をてがける牧場や乗馬クラブを訪問



表彰式 写真中央：ハリーMと佐藤泰選手

し、人工授精の現場や繋養されている種牡馬を視察しました。乗用馬生産に関わる多方面の関係者同士の交流は、遠野だけでなく日本の乗用馬生産の新しい未来にもつながっていくことでしょう。



大浦牧場にて（写真一番左：大浦一平氏）



徳島乗馬倶楽部にて（写真中央：片山志保さんと種牡馬クールK）

遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ
情報誌

No.62

2022年1月1日